

エジプト第1中間期から中王国時代における木製模型研究

— 食糧供物儀礼を示す2次元資料との比較研究の可能性 —

宮崎 澤 菜

要 旨

木製模型は、古王国時代末から中王国時代にかけて当時の人々の生活風景や船などを模型として表した副葬品である。来世で死者に付随し、食糧を永遠に供給する召使であり、食糧供物儀礼を示すという象徴的な機能をもつと考えられている。先行研究では、全地域から出土した資料が集成され、地域ごとの出土数、特徴の抽出や型式編年研究がなされた。しかし、埋葬のコンテクストを重視した研究は進んでいないといえる。また、木製模型以外にも食糧供物儀礼を示す資料が多数、同時期に副葬された。よって、当該時代の副葬品の代表といえる木製模型は同様の機能を持つ様々な副葬品とともにどのような意図で選択されて副葬されたのかということを検討する必要があると考える。また、そういった選択は被葬者や地域によって異なるため、比較を行うことで、埋葬の理想形であったため副葬されたのか、あるいは他の墓との差別化を図るために模型化して副葬したのかなどという木製模型の新しい役割を提示することに繋がると考えた。本稿では、木製模型は2次元資料である壁画・レリーフ資料の3次元化と考えられているため、同時代に副葬された食糧供物儀礼を示す2次元、3次元資料の比較研究について述べ、この研究の方法について提示することを目的とした。

キーワード：木製模型、2次元資料、3次元資料、食糧供物儀礼

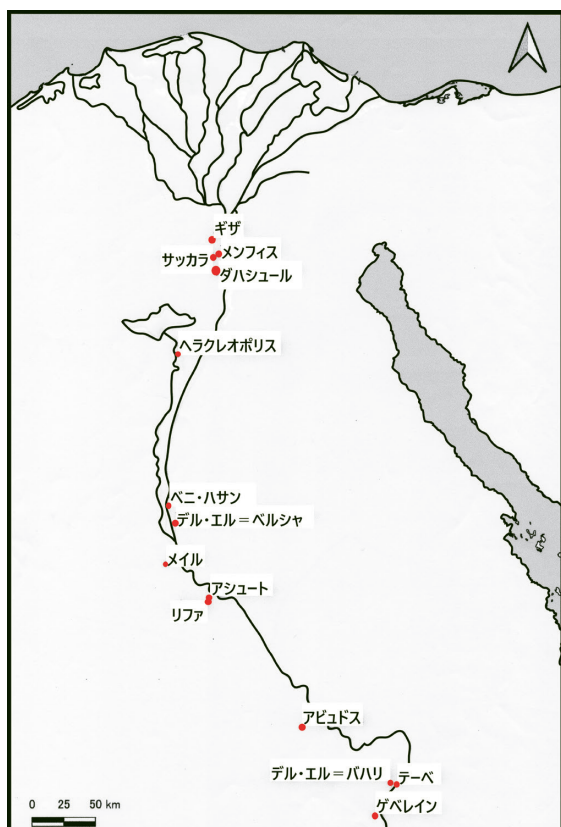
はじめに

木製模型は、古王国時代第6王朝末から中王国時代第12王朝前半にかけて主にエリート層の墓から出土した副葬品である。死者への食糧供物儀礼を表現することが象徴的機能の一つであり、特定の時代にのみ利用されたといえる。その一方で当時の副葬品のうち、図像・文字資料の2次元資料なども食糧供物儀礼を表現した。本稿では、形態は異なるが、同様の機能を持つ副葬品が被葬者によってどのような意図で使い分けられたのかということに着目する。また、木製模型の新たな機能の解明を目的とする研究の一試案を提示する。これまで木製模型は各地域の出土数や場面ごとでのデザインの地域性(Tooley 1989)、型式編年(Diemer 2017)などの遺物単体に注目した研究がされてきた。また、図像資料との類似から、その複製、3次元化した資料と考えられており(Spencer 1982: 67; Tooley 1995: 8; Taylor 2001: 99; Robins 2008: 74-75)、墓内では図像資料の代用品だと考えられている(Tooley 2019: 532)。そのため、それら壁画やレリーフは木製模型の場面を特定するための類例として提示されるに留まっている。しかし、木製模型は埋葬アセンブリッジの一つであり、共伴する食糧供物儀礼を示す副葬品の種類も様々であるため、横断的に比較検討することが必要であると考え。木製模型は当該時代を特徴づける副葬品であるが、被葬者、地域によって

食糧供物儀礼を示す副葬品の選択は異なる。よって、このような検討を行うことで木製模型はこの儀礼を示す副葬品の中でも、どのような意味付けがされたのかを明らかにすることが可能だと考える。加えて、これは最終的に当時の埋葬習慣研究にも寄与すると考えられる。したがって本稿では、この研究の方法について述べることを目的とする。なお本稿では木製模型を3次元資料、その比較対象となる壁画・レリーフ、ステラ、棺の銘文・装飾を2次元資料と定義する。まず、2次元資料と3次元資料のうち各遺物に対してされてきた研究について述べたあと、木製模型と壁画・レリーフ資料を実際に並べて比較する。そして、葬送儀礼の一つである食糧供物儀礼を表現する2次元、3次元資料に限定し、その中で木製模型がもつ機能について考えたい。



第1図 牛に餌を与える人々



第2図 本稿で対象とする遺跡を示したエジプト地図

1. 古代エジプトにおける2次元・3次元資料

1-1. 模型とは

古代エジプトにおいて模型は、先王朝、初期王朝時代ごろから墓に副葬されていた。この当時は、土製で船や穀物倉が模型化されており、本稿の対象資料である木製模型の元型と考えられる (Tooley 2001: 424)。

A. M. J. トゥーリー (Tooley) は、副葬品として用いられた模型 (Tomb models) を二種に分けて定義している (Tooley 2019: 532)。一つは船や醸造、パン作り、そして肉の加工などの調理している人々や穀物倉で穀物の量を記録する人々、供物を運ぶ人々といった当時の場面を3次元的に表現したもの、つまり本稿の対象資料となる木製模型を指し、これらは供物儀礼を示している。また、第6王朝末から中王国時代 (第1表の網かけ部分) にのみ副葬されたと考えられている。もう一つは、副葬品を目的に作られた供物用の土器⁽¹⁾、食糧、武器、工具、などの模型としている。これらは、実物よりも小型化されたり、ファイアンスやカルトナーージュで作られたりすると本来の素材とは異なる素材で作られた。供物用の土器であるミニチュア土器に与えられた役割を研究する矢澤は、「ミニチュアの容器は供物の代替物と考えられているが、このような模型が作られた背景には、古

代エジプト人たちの、実物を象ったもの、もしくはそれを描いた図・文字が、被葬者や神々にとっては実物と同じ働きをするという考え方がある」と述べる (矢澤 2014: 24)。さらに、彼は「供物そのものや、供物を捧げる行為などを描いた壁画、碑文、模型は、神殿や墓などで数多く発見されている。このような「擬似供物」は墓や棺、ステラ、パピルスに描かれる、もしくは副葬されることによって、永遠に死者や神々に供物を供給し続ける儀式的な装置として働いていた」と述べる (矢澤 2014: 24)。これは、木製模型の機能としてもあてはまる考え方である (Tooley 2001: 424; 2019: 532; Diemer 2017: 173)。また木製模型は、供物儀礼を示す壁画やレリーフで描かれた場面との類似性から、2次元資料の複製、あるいは3次元化とも考えられている (Spencer 1982: 67; Tooley 1995: 8; Taylor 2001: 99; Robins 2008: 74-5)。そのため、装飾されていない墓に副葬された木製模型は壁画やレリーフの代替品と見なされている (Tooley 2019: 532)。

1-2. 2次元資料と3次元資料について

本稿では、壁画やレリーフ、棺の装飾などで見られる図像・文字資料のことを2次元資料と定義する。これに対して、図像資料を立体的に表現したものを3次元資料と定義し、模型が該当する。両者の方法で表現された資料が当該時代の墓内で確認できる。前述したように、木製模型は壁画やレリーフに描かれた図像を模型化したものと考えられている。具体的にどのような図像であったのか、類似する点については後述するが、両者を比較する研究として、何の場面を表現したのか不明であった木製模型を同時代の墓の壁画に描かれた人物の配置や手足などの動きの類似から裁判の場面と特定したG. バーカー (Barker) の研究が挙げられる (Barker 2019)。また、こうした2次元資料と3次元資料の比較研究は他の資料でもなされている。例えば、オブジェクト・フリーズ (第10図赤枠部分) と呼ばれる中王国時代の箱型木棺の内側に描かれた図像研究のなかで、描かれた土器と実際に副葬された土器の器形を比較したS. アレン (Allen) の研究が挙げられる (Allen 2009: 331-332)。器形の類似から両者が同一のものだと特定した。また、E. テラス (Terrace) も棺に描かれた供物儀礼の場面で見られる土器と実際に副葬された土器の器形などを比較して、供物が入れた器だと特定した (Terrace 1968: 64)。2次元資料と3次元資料を比較することで、どのような用途で使われていたのかを特定する研究が多くなされているといえる。また、木製模型に限らず、当該時代の埋葬において、多数の種類の副葬品が2次元、3次

元の両方の形態で表現されていたことが分かる。

こうした研究の一方で、H. ウィレムズ (Willems) によると、オブジェクト・フリーズでは、副葬品を描写しただけでなく、儀礼に必要な死者への副葬品の目録を示すことで、儀礼を抽象的に表していると考えられている (Willems 1988: 203)。彼の研究を踏まえて、山崎は特定の装身具と葬送儀礼との関係に着目している (山崎 2019)。彼女は、オブジェクト・フリーズで示された装身具の種類やその背景にある儀礼が実際に副葬された装身具にも反映されていると明らかにしており、2次元資料と3次元資料は単に、そのものを表現しあうだけでなく、それらが関係する儀礼も同様に表現していることが分かる。

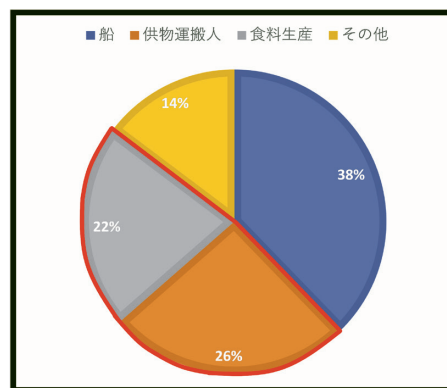
第1表 研究対象とする年表

古王国時代	前2543-2120年
第4王朝	前2543-2436年
第5王朝	前2435-2306年
第6王朝	前2305-2118年
テティ	前2305-2279年
ウセルカーラー	?-?
ペピ1世	前2276-2228年
メルエンラー	前2227-2217年
ペピ2世	前2216-2153年
第8王朝	前2150-2118年
第1中間期	前2118-1980年
第9・10王朝 (ヘラクレオポリス)	前2118-1980年
中王国時代	前1980-1760年
第11王朝 (テーベ)	前2080-1940年
メンチュホテプ1世	前1980-?
アンテフ1世	?-2067年
アンテフ2世	前2066-2017年
アンテフ3世	前2016-2009年
メンチュホテプ2世	前2009-1959年
メンチュホテプ3世	前1958-1947年
メンチュホテプ4世	前1947-1940年
第12王朝	前1939-1760年
アメンエムハト1世	前1939-1910年
センウセレト1世	前1920-1875年
アメンエムハト2世	前1878-1843年
センウセレト2世	前1845-1837年
センウセレト3世	前1837-1819年
アメンエムハト3世	前1818-1773年
アメンエムハト4世	前1772-1764年
セベクネフェル	前1763-1760年
第2中間期	前1759-1539年

2. 木製模型の象徴的機能の先行研究

2-1. 食糧供物儀礼について

木製模型は、前述したように供物儀礼を示すといった象徴的機能を持つ副葬品の一つとして用いられていたが、供物儀礼の中でも特に食糧供物を示すことが多かったといえる。なぜなら、トゥーリーによる全地域から発見された第6王朝から中王国時代に年代づけられる木製模型⁽²⁾を集成した結果をもとに (Tooley 1989: 68-72)、種類別に割合を算出したところ、食糧生産場面と食糧品などを運搬する供物運搬人が半数近く占めていることが分かったからである (第3図赤枠部分)。つまり、こうした食糧供物を示す場面を多く模型化し、各地域の墓に副葬されていたということである。よって、本



第3図 木製模型の種類別出土割合 (n=768)

稿では木製模型は供物儀礼の中でも食糧供物儀礼を示すことに特化した副葬品と考える。以下では、食糧供物儀礼がどのようなものであったのか、木製模型以外にこの儀礼がどのような形態で埋葬内において示されたのかを述べ、木製模型の位置づけを行うこととする。

古代エジプトにおいて食糧供物儀礼は、人間が生き延びていくために最も必要な食糧を捧げる行為で、全時代を通じて形を変えながらこの儀礼は行われていた (Taylor 2001: 92)。先王朝、初期王朝時代ごろから実物の食糧が副葬されていたが、古王国時代になると、それらは徐々に副葬されなくなったと考えられている (Englund 2001: 566; Taylor 2001: 92)。また、供物儀礼全体にいえることだが、通常、こういった儀礼は死者の親族や司祭が行うのだが、長年続けることが困難となり、遠戚であればあるほど忘れられてしまう可能性も考えられる (Taylor 2001: 96)。そのため、呪術的な力があると見なされた文字と図像によって供物を表現した (Taylor 2001: 96)。具体的に、パン、ビール、牛、鳥が列挙され、これらは古代エジプト人にとって食糧の主要品目であったと考えられる (Taylor 2001: 96)。なかでも、文字で食糧名が表現されたものの1つである供養文 (Offering formula) は墓の礼拝堂に配置されたステラや棺などの随所でみられる。さらに、古王国、中王国時代の棺や墓の礼拝堂の壁面には、四角の枠内にひとつひとつ供物名が列挙された供物リスト (a list of offerings) が刻まれた。供物リストでは、最も必要な供物のみが示された供養文と比べると、食糧はもちろんその他多くの供物が一覧化された (Taylor 2001: 97)。しかし、食糧とその他の供物が列挙されていたのは古王国時代初期までで、それ以降は食糧のみを表現したとも考えられている (Barta 1968: 587)。

文字資料の一方で、前述したミニチュア土器やピラミッド・ウェアなどの土器も食糧供物として副葬された。両者は、いずれもメンフィス・ファイユーム地域の王族

・高官の墓に副葬された（矢澤 2019：58）。ミニチュア土器は、実物の供物の代用品として古王国、中王国時代の墓で死者に捧げられた（矢澤 2014：23）。ピラミッド・ウェアは、センウセレット2世治世ごろから、副葬された精製土器である（矢澤 2019：56）。器形が、古王国時代の埋葬で使用された石製容器や土器といった供物容器の器形と類似しているため、これらの模倣と考えられている（Allen 2006; 2009）。どの表現でも当てはまるが、朽ちてしまう実物の供物に対して、永遠に供物を供給できるようにするために（Allen 2006: 20）、様々な形態で食糧供物儀礼が行われたことが分かる。

木製模型も上記で述べた理由と同様の背景のもと、登場したと考えられる。しかし、ここまで概観してきた食糧供物儀礼を表す他の副葬品と比較すると、木製模型は供物そのものを表現したり、またその代用品を使って儀礼を示すのではなく、人間が食糧を生産し、管理し、加工して、運ぶなどという一連の作業によって食糧供物儀礼を表現していることが分かる。しかしこれは、壁画・レリーフにも当てはまることである。それでは、木製模型にしか無い特徴は何であろうか。やはり、食糧供物儀礼において、3次元資料、つまり模型として人間の活動する姿を表現することが重視されて、利用されるようになったと考えられる。また、他の副葬品と比べると大量生産しづらいものだったと推定でき、希少価値があったと考えられる。しかしながら、エジプトの各地域で副葬品として、利用されたことが分かる（Tooley 1989; Diemer 2017）。よって、木製模型で表された食糧供物は当時の人々の理想形であり、一連の作業を模型として表すことで、被葬者は来世でも食糧をより確実に得られたといえる。

2-2. 2次元資料との比較

前述したように、木製模型は墓の礼拝室に施された壁画やレリーフの複製、つまり、2次元資料を3次元化したものと考えられている（Spencer 1982: 67; Tooley 1995: 8; Taylor 2001: 99; Robins 2008: 74-75）。2次元資料も同様に召使として機能する（Tooley 1989: 175; 1995: 8）。よって、まずは木製模型の象徴的機能、表現の根源に関する資料として、当時の日常生活の活動が描かれる壁画やレリーフについて述べていくこととする。

2次元資料の一つである壁画、レリーフで日常生活における活動が描かれるようになったのは、第4王朝で、そのレパートリーは古王国時代を通じて増えていった（Robins 2008: 67）。レパートリーは主に以下の7カテゴリに分けられる（Kanawati 2001: 83-112）。

① 墓主人とその家族

② 農業生活

③ 漁業、野鳥狩り、砂漠での狩猟

④ 職人と産業

⑤ スポーツと娯楽

⑥ 葬送儀式

⑦ 来世

以上のような表現は呪術的に死者の永遠の生を保証すると考えられ（Dodson and Ikram 2008: 15）、王朝時代を通してエリート層の墓の礼拝堂に装飾された（Barker 2018: 7）。

木製模型で表現される場面も主に以下の5カテゴリに分けることができる（Tooley 2005）。

① 農業と畜産

② 食糧の準備

③ 産業の過程

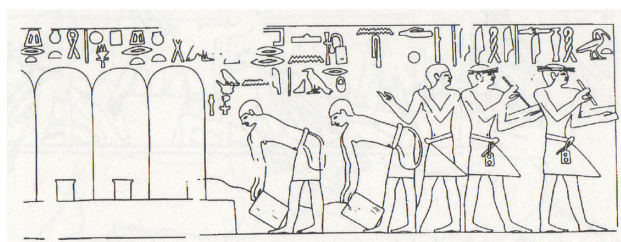
④ 供物運搬人

⑤ 船

2次元資料の7カテゴリと比較すると、多くのカテゴリが重複することが分かり、両者のデザインには明確な関係がある（Barker 2018: 7）。実際に比較すると、場面以外にもその構成や描写も重複することが分かる。第4図では、ドーム型の穀物倉に穀物を運び入れている二人の男性と、その横で書記たちが穀物の量を記録している姿が描かれている。一方、第5図は、穀物倉の木製模型である。第4図とは異なり、倉の屋根が無い。しかし、穀物を運び入れる人が二人、記録係の書記が一人いるのが確認でき、作業内容は同様であることが分かる。

さらに、壁画やレリーフだけでなく墓や葬祭施設に置かれた石碑のステラでも類似する場面を確認できる（第6・7図）。第6図（赤枠部分）から第8図は、すべて供物運搬人であるが、どれも複数人が1列に並んでいる構成である。また、片方の手で野鳥の羽を持って運んでいるのが分かる。第7・8図では男女が並んでおり、どちらもかごの中には食料が入っており、頭上にのせて運ぶ姿が確認できる。

以上の2次元資料と木製模型を比較すると、場面の構成、さらに手足の動きにも共通点が見られる。



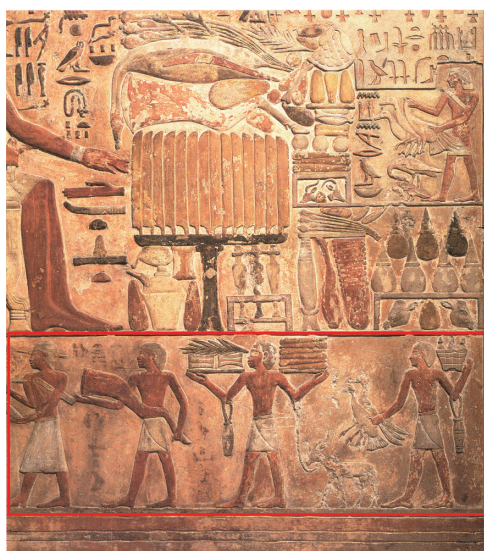
第4図 穀物の記録



第5図 穀物倉



第8図 供物運搬人の列



第6図 Meru の供物を示すステラ



第7図 Wehem-nefret のステラ

3. 先行研究の問題点と解決方策

以上の先行研究において、木製模型の象徴的機能は、壁画やレリーフの複製とされるほど、2次元資料と同一と考えられている。しかしながら、同一とされているだけで、なぜわざわざ模型化したのかという理由は分かっていない。また、食糧供物表現の一つとされながらも、同時代に用いられた食糧供物表現を示す副葬品との関係性は分かっていない。そもそも、埋葬コンテキストの一部でありながら、遺物個々で研究がされているため、食糧供物表現という枠組み内で被葬者や地域などによってどのように表現形態が異なるのかは分かっていないのである。

以上のような研究の課題から、2次元資料と木製模型との使い分けについて分析する必要があると考えた。また、こうした観点からの分析は、木製模型の象徴的機能の再考察にもつながる。さらに、当該時代の埋葬では、共通の食糧供物儀礼を様々な形態で表現し、副葬したといえる。そのため、これら副葬品選択の意図は何であったのかを解明することで利用の様相を復元することができると考えた。

食糧供物を表す木製模型と2次元資料の使い分けを分析する際に、分析対象とする墓の被葬者は、王族などのエリート層であるが、そのなかでも、階層差があり、副葬品の内容も変化すると考えられる。さらに、墓構造も様々であり、埋葬形態にも影響を与えられられる。そのため、まずは、分析対象である木製模型と2次元資料である壁画・レリーフ、ステラ、棺の銘文・装飾という項目を設け、どの方法で食糧供物儀礼を表現したのかで分類する。そして、その分類結果を階層、墓構造に照らし合わせ、特定の傾向が見られるのかを分析する。

そこで、以下では現在、先行研究で明らかにされていることを踏まえながら、具体的な研究方法を提示したい。

4. 木製模型と2次元資料の使い分け

4-1. 分析対象の特徴

当時の埋葬で主に確認できる食糧供物表現は、木製模型と2次元資料の壁画・レリーフ、ステラ、棺の銘文・装飾である。よって、それぞれがどのような特徴であるのかを述べる。

まず、木製模型における食糧供物表現は、主に供物運搬人像、醸造、パン作り、肉加工、穀物倉である。供物運搬人像は、男女で単体や第8図のように複数人が一列をなす像が確認されている。また、女性像は主にペアで作られており、これは上下エジプト、秩序と混沌などといったエジプト人の対になるイデオロギー的概念と関係していると考えられている（Tooley 1995: 26）。男性よりも女性の立像が多く、左足を前に出して歩行し、頭上に食糧を入れたかごを片手で支え、もう一方の手で野鳥の羽をつかんでいる姿である（Tooley 1995: 22-23）。男性像も同様であるが、食糧だけでなく、家具や布などを運ぶ姿も確認されている（Tooley 1995: 26）。大型のもので高さ1m以上であるが、30cm～60cmほどの高さが大半である。パン作りは、穀物からパンになるまでのすべての過程を表現するものはあるものの、大半は醸造とセットで模型化されている（Tooley 1995: 29）。ここでは女性が膝をついて粉をひき、窯の前に座り生地を焼いたり、その横で男性が腰くらいの高さのある大桶のなかでパン生地を練ったり、ビールの原料となる麦芽汁を圧搾している（Tooley 1995: 31）。肉加工は、複数人で脚を縛った牛の喉を刃物で切っている場面が多い。また、その際に牛などの動物の近くで血液をボウルに入れる人がいるのだが、小麦粉と混ぜ合わせられてプリンのように調理されたと考えられている（Tooley 1995: 32）。また、ガチョウなどの野鳥の胴体を調理用に処理する場面も確認されている（Tooley 1995: 32）。第11王朝から第12王朝にかけてパン作り、醸造、肉加工が1つの台の上で表現され、複合模型となっていく（Tooley 1995: 34）。穀物倉は、その名の通り、穀物を貯蔵しており、ドーム型と箱型（flat-roofed）に分けられる（Tooley 1995: 36）。ドーム型は壁画で描かれていることが多く（第4図）、木製模型では箱型で表現される（Tooley 1995: 37-38）（第5図）。複数人が仕切られた箱の中で、穀物が入った粗布の袋から穀物を出し、貯蔵された量を記録する人もいた（Tooley 1995: 39）。ま

た、数例であるが、本物の穀物を入れた木製模型も確認されている（Tooley 1995: 40）。

壁画・レリーフで表現される食糧供物は2-2で示したように、多くの場合人物が伴っていたが、中には食糧のみが描かれた壁画もある。サッカラ南部で発見された第6王朝から第1中間期ごろのSabiという人物の墓は、壁画がほぼ完全な状態で残されている（Dobrev 2016）。第9図で示したように、一番奥には7つの穀物倉が確認でき、さらに左側には肉、鳥、パン、野菜、ミルクが入った容器、ビールなどが描かれている（Dobrev 2016: 115-116）。

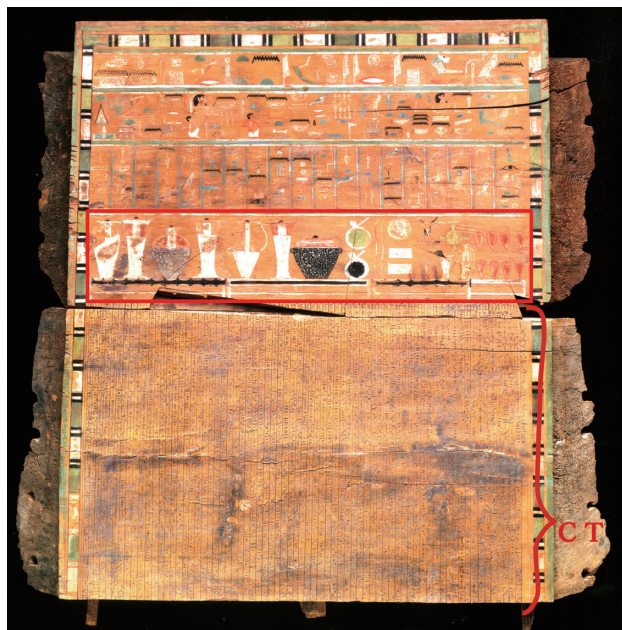


第9図 Sabi墓の埋葬室

ステラも、第6・7図で示したような供物運搬人を示すだけでなく、食糧供物が積まれている卓の前で死者本人とそのパートナーが並んでいる姿が表現されているものもある（Hayes 1953: 330）。家族に付き添われ、食糧の準備がなされた様子が分かる。また、死者への供養が永続することを祈った内容が記されている供養文と呼ばれる定型文（吉村 2015: 138）、王や死者の名前、称号が刻まれたりと、様々な描写が確認できるが、パンや肉などの食糧が共通して描かれており、食糧供物を示していることが分かる。

最後に棺の銘文、装飾でも食糧供物について表現されている。第6王朝ごろに、それまでは外観がシンプルであったにも関わらず、銘文や装飾が施されるようになった（和田 2014: 204）。死者に対して供物を捧げる際に唱えられた呪文、ヘテブ・ディ・ネスウト文とアイ・パネルである（和田 2014: 204-205）。ヘテブ・ディ・ネスウト文中に記されるペレット・ケルウ文では供物の嘆願が示されており、当時の棺の銘文パターンであったが（Willems 1988: 124）、第1中間期にあたるベルシャで発見されたHenuの棺には、ヘテブ・ディ・ネスウト文が記されるも、ペレット・ケルウ文は含まれなかった

(Meyer 2018: 228)。ペレット・ケルウ文は中王国時代に一般的に記されるようになるとも考えられているが (Spanel 1985: 246)、時代差があったのか不明である。さらに、第1中間期から中王国時代にかけての箱型木棺の内側には、前述したオブジェクト・フリーズと呼ばれる装身具や武器などの品々の絵が並ぶ装飾帯が描かれた (第10図赤枠部分)。主に、食糧以外の供物が描かれるのだが、頭部面と足部面のみ食糧が描かれているため (Willems 1988: 203)、食糧供物儀礼を示す副葬品といえる。またそれ以外の区画には前述した供物リストやコフィンテキスト (以下CT) (第10図) と呼ばれる死者が来世に行く際に助ける呪文が描かれた (Willems 1988: 231)。供物リストは、CTに先行し、5つに分類できるリストのうち (Barta 1968: 587)、本研究の対象となるのは口開けの儀式と食糧供物儀礼の組み合わせた儀礼を反映したリストが刻まれた棺である。CTは、オブジェクト・フリーズ同様に木棺の内側に記されている。前述したようにオブジェクト・フリーズにおいて描かれた食糧に対応して、絵の真下に食糧供物儀礼に関連することが記された (Willems 1988: 232)。



第10図 外棺の頭部内側の装飾

4-2. 階層について

木製模型、2次元資料を用いた被葬者は、王に仕えた宮廷役人からそれに仕えた者、また州侯やその延臣や彼らのもとで州政治を行う役人といった階層の人々である。本稿の対象時代の社会は王の権力が弱まり、国家の再形成を果たす時代であったため、特に、地方の支配者たちは勢力をもっていた。それは、大規模な墓の造営や

地域ごとに副葬品をはじめとした物質文化が発展していたことから明らかである。さらに、木製模型被葬者は、第6王朝ごろまでは、称号を持った人に限定されていたが、第9、10王朝ごろになると、称号を持たない人々も副葬し始めた (Tooley 1989: 375)。こうした称号を持たない被葬者は、称号をもつ者と親族関係を持つことで、木製模型を副葬することができたと考えられている (Tooley 1989: 375-376)。

当時の装身具に限定した研究であるが、山崎 2018では王族、非王族間における装身具選択の違いを分析している。両者には、素材まで共通して利用された装身具・護符が数多く存在することが明らかにされており、一部の装身具以外は価値の高い素材であっても自由に選択できたと考えられている (山崎 2018: 525)。つまり、当時は特定のものを除くと、副葬品選択には階層差を超えた共通性があったと考えられる。

4-3. 墓構造

当該時代の墓で大半の地域で確認できる構造は、シャフト墓と呼ばれるもので、主にシャフト部 (堅穴) と埋葬室によって構成されるが、平面形、深さ、部屋数、部屋の配置、長軸の方位、壁面装飾の有無などには違いがある (矢澤・吉村 2015: 198)。ベニハサンでは800基以上のシャフト墓が造営されている (Garstang 1907)。墓の入口は約1m四方であるが、シャフト部の深さは4mほどの浅いものがあれば、8mと深いものもあり、統一性が見られない。さらに、埋葬室の規模は全体的に棺とその他の副葬品が入れられるほどの大きさで必要以上の広さはなく、長さ約2m、幅約80cmであるが、高さは80cmほどの低いもの、1.5mほどの高いものがあり、70cmほどの差がある (Garstang 1907)。部屋数も、1室や3室で、1つの遺跡内でも、墓の規模や構成は様々である。

矢澤・吉村 2015では、ダハシュール北遺跡のシャフト墓を、その規模によって、Small、Middle、Largeと分類され、その規模・形状と副葬品の内容との関係について整理されている。特に、副葬品の内容についてはSmallとMiddleを境に明確な差があることが確認された (矢澤・吉村 2015: 205-206)。さらに、MiddleとLarge間にはシャフト部の深さに大差があり、墓造りにかかる労働量の多寡は両者間の経済的な格差を示すと考えられた (矢澤・吉村 2015: 206-207)。

中王国時代はベニハサン、アシュート、ベルシャなどの中部地域、テーベなどの南部地域では、州侯などの岩窟墓が造営され、現在でも残存状況の良好な例が多い (Grajetzki 2003: 43)。被葬者によって、礼拝堂が付属

し、その下に複数のシャフト墓を有する。アシュートの出土例では、第11王朝から第12王朝初期にあたるNhtiという男性を含む家族墓が確認されているが、礼拝堂付きでその下にはシャフト構造で4室の埋葬室に続いており、Nhtiの埋葬室は長さ約2.5m、幅約1.5mである（Zitman 2010a; 2010b）。さらに、地上にベンチ型の上部構造をもつマスタバ墓が第12王朝初期の宮廷役人たちによって再度採用された。宮廷の共同墓地がテーベから北部のリシュトに移ったことで、メンフィス地域で主に造営された。また、マスタバ墓は内室の有無で2種類に分けることができる（Grajetzki 2003: 45）。リシュトやメンフィスでは内室を伴い、小規模であるが古王国時代のものと同様の偽扉が表現されている。さらに、リシュトの高官であったIntefiqerのマスタバ墓では破片であるが、供物の場面が描かれていたことが確認されている（Grajetzki 2003: 44-45）。

このように当時の墓の形態や構造は、地域や被葬者の階層などによって異なることが分かる。

4-4. 分析視点

以上の先行研究で明らかにされてきた当時の埋葬例から、木製模型と2次元資料の使い分けを特定するために、今後は以下のような視点での分析を行うことが有効であると考えられる。

- (1) 食糧供物表現の方法
- (2) 階層差
- (3) 墓構造

(1) は、各墓で確認できる食糧供物表現の出土コンテキストに着目した考古学的視点である。木製模型のように3次元的に表現したのか、あるいは壁画やレリーフ、または文字資料である棺の銘文などのように2次元的に表現したのか、さらにそこには組み合わせがあったのかという検討である。例えば、埋葬室1室で、木製模型は供物運搬人のみが副葬されるが、2次元資料では醸造、パン作りといった場面が描かれている場合、表現する対象によって表現方法を変えていることが想定できる。

(2) は、階層ごとに(1)で確認した表現方法に一貫性があるのかを検討する。前述したようにエリート層のなかでも階層差はあるため、発掘報告書等で確認できる範囲内であるが、明らかにされている称号をもとに、階層と食糧供物の表現法との相関性を検討したい。例えば、前述したSabiという人物はエリート層のなかでも、低い階層だと推定されているが、埋葬室の壁に食糧が描かれており、そうした装飾は他の階層でも見られるのか、比較的高い階層で確認できないのであれば、そうい

った装飾は他の表現法よりも低い階層の人々に選択されたのかなどという可能性を指摘できる。

(3) は、4-3でも述べたように、当時の墓構造は多様であり副葬品の内容との関係性が明らかにされていることから、木製模型と2次元資料の選択にも影響を及ぼすのか検討する。

このような観点の分析により、木製模型と2次元資料の選択に階層差や墓構造との相関性、一定の法則性を見いだせた場合、当時の人々が抱いた「模型化」すること、3次元的に表現する意味が何だったのかを指摘でき、また、木製模型が比較的高い階層に選択されていたとしたら、多く用いられる2次元資料では表現しないことで他の階層との差別化を図るために副葬したという可能性を指摘できる。そのため、単に被葬者の召使として食糧を捧げる役割をもって副葬されただけではなく、様々なコンテキストの兼ね合いのもと、選択され、副葬されたことを示唆できる可能性がある。

おわりに

本稿では、分析の一試案を提示してきた。現在、発掘報告書などをもとに分析対象となる埋葬例を集積している段階であるが、写真や図で確認できるものが限定されており、そうした資料を中心的に扱っていくこととなる。そのため、地域によって資料数にばらつきが生じる可能性があることが課題として挙げられる。ただし、上記のような目的を達成するには、量的ではなく質的分析がより重要であり、ひとつひとつの埋葬コンテキストを詳細に見ていくことで木製模型を用いた埋葬の思想的背景や意図されたことを具体的に復元することができると考えられる。

謝辞

本稿を書くにあたり、日頃からご指導いただきました早稲田大学文学学術院の近藤二郎先生に感謝申し上げます。また、早稲田大学考古学研究室の大学院生の方々にも丁寧なご指導やご助言をいただきました。ここで感謝の意を表させていただきます。

註

- (1) Allen 2006では、供物用の土器を「ミニチュア」と「模型」に分けている。前者を実物よりも小型化されたものであるが、本来の容器としての機能をもつものとする（Allen 2006: 21）。後者は、多くが実物よりも小型化されているが、なかには同じスケールのものもある。しかし、実物が石製のものを木製とするなど

容器としての機能をもっていない (Allen 2006: 21)。
本稿では「ミニチュア」は通常、実物を小さい縮尺で作った「模型」(矢澤 2014: 24)とする。

(2) Tooley 1989: 67では、中王国時代ではなく第13王朝/17王朝とされているが、センウセルト3世ごろまでの資料も含まれているため、トゥーリーの集成のまま割合を算出した。また、破片を除いた。

引用文献

- 矢澤 健 2013 「エジプト中王国時代のファウンデーション・デポジットのミニチュア土器について」
吉村作治先生古稀記念論文編集委員会編『永遠に生きる—吉村作治先生古稀記念論文集』中央公論美術出版 p539-552
- 矢澤 健 2014 「エジプト中王国時代のミニチュア土器使用に見られる「単位」について」『西アジア考古学』15 日本西アジア考古学会 p23-46
- 矢澤 健 2019 「古代エジプトの供献土器に見られる精製と粗製」『古代』145 早稲田大学考古学会 p55-77
- 矢澤 健・吉村作治 2015 「エジプト・ダハシュール北遺跡の中王国時代のシャフト墓について—遺構の形状・規模・分布の分析—」『オリエント』58 日本オリエント学会 p196-210
- 山崎世理愛 2018 「エジプト中王国時代の装身具研究—装身具選択とその社会的背景の考察を中心に—」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』63 早稲田大学大学院文学研究科 p523-525
- 山崎世理愛 2019 「エジプト中王国時代の葬送における装身具のカテゴリとその役割について」『西アジア考古学』20 日本西アジア考古学会 p35-53
- 吉村作治 2015 『国立カイロ博物館所蔵 黄金のファラオと大ピラミッド展』TBSテレビ
- 和田浩一郎 2014 『ポプラ新書031古代エジプトの埋葬習慣』ポプラ社
- Allen, S. 2006 Miniature and Model Vessels in Ancient Egypt. In M. Barta (ed.) *The Old Kingdom Art and Archaeology: Proceedings of the conferences held in Prague, Mai 31- June 4, 2004.*: 19-24. Prague: Publishing House of the Academy of Sciences of the Czech Republic.
- Allen, S. 2009 Funerary Pottery in the Middle Kingdom: Archaism or Revival? In P. D. Silverman, K. W. Simpson and J. Wegner (eds.) *Archaism and*

Innovation: Studies in the Culture of Middle Kingdom Egypt.: 319-339. New Heaven and Philadelphia: Yale Egyptological Seminar. University: Department of Near Eastern Languages and Civilizations.

- Baines, J. and Malek, J. 1980 *Atlas of Ancient Egypt*. Oxford: Phaidon.
- Barker, G. 2018 Funerary Models and Wall Scenes. The Case of the Granary. *GM* 254: 7-13.
- Barker, G. 2019 Classification of a Funerary Model: The Rendering of Accounts Theme. *JARCE* 55: 5-13.
- Barta, W. 1968 Opferliste. In W. Helck and E. Otto (eds.) *Lexikon der Ägyptologie IV.*: 587. Wiesbaden: Otto Harrassowitz Verlag.
- Breasted, Jr. J. H.. 1948 *Egyptian Servant Statues*. New York: Pantheon Books.
- Diemer, E. G. 2017 From the Workshop to The Grave: The Case of Wooden Funerary Models. In G. Miniaci, M. Betrò and S. Quirke (eds.) *Company of Images: Modelling the Imaginary World of Middle Kingdom Egypt (2000-1500 BC).*: 133-192. Leuven; Paris; Bristol: Peeters.
- Dobrev, V., Laville, D. and Onézime, O. 2016 Nouvelle découverte à Tabbet el-Guech (Saqqâra-sud) Deux tombes de prêtres égyptiens de la VI^e dynastie. *BIFAO* Vol. 115: 111-144.
- Dodson, A. and Ikram, S. 2008 *The Tomb in Ancient Egypt: Royal and Private Sepulchres from the Early Dynastic Periods to the Romans*. London: Thames & Hudson.
- Egyptian Museum of Turin 1988 *Egyptian Civilization Dairy Life. Istituto Bancario San Paolo di Torino*. Turin: Istituto Bancario San Paolo di Torino.
- Englund, G. 2001 The offering cult for the dead. In D. B. Redford (ed.) *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt Vol. 2.*: 566. Oxford: Oxford University Press.
- Freed, E. R., Berman, M. L., Doxey, M. D. and Picardo, S. D. 2009 *The Secret of Tomb 10A Egypt 2000BC*. Boston: Museum of Fine Arts.
- Garstang, J. 1904 *Excavations at Beni Hasan(1902-1903-1904)*. ASAE 5: 215-228.
- Garstang, J. 1907 *The Burial Customs of Ancient Egypt as Illustrated by the tombs of the Middle Kingdom. Being a Report of Excavations Made in the Necropolis of Beni Hassan during 1902-3-4*. London: University of Liverpool. Institute of Archaeology.

- Grajetzki, W. 2003 *Burial Customs in Ancient Egypt: Life in Death for Rich and Poor*. London: Bristol Classical Press.
- Grajetzki, W. 2014 *Tomb Treasure of the Middle Kingdom: The Archaeology of female Burials*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Grajetzki, W. 2006 *The Middle Kingdom of Ancient Egypt: history, archaeology and society*. London: Bristol Classical Press.
- Hayes W. C. 1953 *The Scepter of Egypt: Vol. 1 From the Earliest Times to the End of the Middle Kingdom*. New York: Metropolitan Museum of Art.
- Hornung, E, Krauss, R, and Warburton, D. A. 2006 *Ancient Egyptian Chronology*. Liden: Brill.
- Kanawati, N. 2001 *The Tomb and Beyond: Burial Customs of Ancient Egyptian Officials*. Warminster: Aris & Phillips.
- Meyer, D. M. 2018 Reading a burial chamber: anatomy of a first intermediate period coffin in context. In Taylor, H. J. and Vandenbeusch, M. (eds.) *Ancient Egyptian Coffins Craft traditions and functionally*: 217-229. Leuven-Paris-Bristol: Peeters.
- Pardey, E. M. 1984 Scheingaben. In W. Helck and E. Otto (eds.) *Lexikon der Ägyptologie V.*: 560-563. Wiesbaden: Otto Harrassowitz Verlag.
- Richards, J 2005 *Society and Death in Ancient Egypt*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Robins, G. 2008 *The Art of Ancient Egypt*. Cambridge: Harvard University Press.
- Roth, A. M. 2002 The Meaning of Menial Labor: ‘Servant Statues’ in Old Kingdom Serdab. *JARCE* 39: 103-21.
- Shaw, I. 2000 *The Oxford History of Ancient Egypt*. Oxford: Oxford University Press.
- Spencer, A. J. 1982 *Death in Ancient Egypt*. Harmondsworth: Penguin Books.
- Spanel, B. D. 1985 Ancient Egyptian Boat Models of the Herakleopolitan Period and Eleventh Dynasty. *SAK* 12: 243-53.
- Taylor, J. H. 2001 *Death and the Afterlife in Ancient Egypt*. London: British Museum Press.
- Terrace, E. 1968 *Egyptian Paintings of the Middle Kingdom*. London: George Allen & Unwin Ltd.
- Tooley, A. M. J. 1989 *Middle Kingdom burial customs: a study of wooden models and related material*. University of Liverpool, PhD. Thesis.
- Tooley, A. M. J. 1995 *Egyptian Models and Scenes*. Buckinghamshire England: Shire Publications Ltd.
- Tooley, A. M. J. 2001 Models. In D. B. Redford (ed.) *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt Vol.2.*: 424-28. Oxford: Oxford University Press.
- Tooley, A. M. J. 2005 Models. In D. B. Redford (ed.) *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt Vol.2.*: 370-3. Oxford: Oxford University Press.
- Tooley, A. M. J. 2019 Tomb Models. In L. K. Sabbahy (ed.) *All things Ancient Egypt, An Encyclopedia of the Ancient Egyptian World Vol. 2.*: 532-535. California; Colorado: Greenwood.
- Willems, H. 1988 *Chests of Life: A Study of the Typology and Conceptual Development of Middle Kingdom, Standard Class Coffins*. Leiden: Ex Oriente Lux.
- Zitman, M. 2010a *The Necropolis of Assiut: A Case Study of Local Egyptian Funerary Culture from the Old Kingdom to the End of Middle Kingdom, Text*. Leuven; Paris; Wapole MA: Peeters.
- Zitman, M. 2010b *The Necropolis of Assiut: A Case Study of local Egyptian Funerary Culture from the Old Kingdom to the End of Middle Kingdom, Maps, Plans of Tombs, Illustrations, Tables, Lists*. Leuven; Paris; Wapole MA: Peeters.

図表出典一覧

- 第1図 Freed, Berman, Doxey and Picardo 2009: 161, fig.119.
- 第2図 Baines and Malek 1980 をもとに筆者作成。
- 第3図 Tooley 1989: 68-72 をもとに筆者作成。
- 第4図 Kanawati 2001: 89, fig.94.
- 第5図 Freed, Berman, Doxey and Picardo 2009: 162, fig.121.
- 第6図 Egyptian Museum of Turin 1988: 54, fig.56. 一部加筆。
- 第7図 Egyptian Museum of Turin 1988: 200, fig.278.
- 第8図 Freed, Berman, Doxey and Picardo 2009: 152, fig.113.
- 第9図 Dobrev 2016: 131, fig.13.
- 第10図 Freed, Berman, Doxey and Picardo 2009: 109, fig. 69. 一部加筆。
- 第1表 Hornung 2006 から引用。